

5 節 アングロアメリカ

移民の国 アメリカとカナダ

アメリカ大陸をヨーロッパに紹介した人というとクリストファー コロンブスが思い浮かぶ。彼が到達したのはカリブ海の島々だったが、インドの一部と思い込んでいた。そのため西インド諸島（West Indies）の地名や先住民族の呼称インディオ（Indio）などに名残を留めている。彼に遅れること数年、イタリア人アメリゴ ヴェスプッチは、今のベネズエラを探検し、さらにポルトガルの探検隊とともにブラジルを探検した。そして、この地はインドではなく新しい大陸であることが判明し、「新大陸」の呼称が定着した。

アングロアメリカのアングロは、イギリスの主要な民族であるアングロサクソン人からとられた。すなわち、現在のアメリカ合衆国とカナダは、アングロサクソン人によって開拓された地域という意味である。実際、アメリカとカナダで、つい最近まで社会、経済の中核をなしていたのは、アングロサクソン系、プロテスタントの人々であった。



コロンブス像（ハバナにて）

【資料】 裁かれるコロンブス

1992 年、クリストファー コロンブスが新大陸に到達してから 500 年が経った。彼の生誕地イタリアの

シ
エノバや航海を援助したスペインでは、その偉業を讃え、それぞれ博覧会が催された。しかし、中南米諸国では「征服によって環境破壊がもたらされた」とする意見が出てきたり、「抵抗の 500 年」と位置づけて先住民会議が開かれたりした。アメリカでも、これまでの英雄扱いを見直す気運が盛上っている。セントポール市にあるメネソタ大学の人権センターでは、コロンブスに対する模擬裁判が行われた。そして、彼は奴隷売買、集団殺害、拷問、強制労働、殺人など、10 件の罪で起訴された。

また、歴史家ノーマン ファイアリング博士は、「われわれは、『発見』とか『新大陸』という表現には、もっと注意深くなければならない。いずれも、ヨーロッパから見た一方的な表現だからだ」と述べている。

（朝日新聞 1992/3/27）

アメリカ、カナダとも大陸的スケール

カナダはロシアに次いで 2 番目に広い国土で日本の約 26 倍、アメリカは日本の約 25 倍でカナダに次いで 3 番目に大きな国である。双方とも大陸的スケールだけに、自然環境も極めて多様である。西経 90 度に沿って北から見ると、北極海諸島からハドソン湾にかけては寒帯のツンドラ（ET）気候。当然、農耕は不可能で、伝統的に狩猟に頼る極北民族イヌイットが居住している。ハドソン湾南部は亜寒帯湿潤気候で、広大な針葉樹林帯、タイガが広がる。アメリカとカナダとの国境をなす五大湖周辺には鉄山が多く、内陸部の石炭が五大湖の水運で結び付き工業発達の基盤となった。さらに南に移動すると、気候は温暖になり、ミシシッピ川流域の中央平原は世界有数の農業地帯となっている。この大農業地帯は、気候環境によって主要な栽培作物が異なり、農業の地域区分が成立している。北部はコーンベルトと呼ばれる混合農業地帯であり、南部は温暖な気候で、かつて黒人労働力を利用した綿花栽培が盛んであったが、今日では大豆などの多角的経営へと変化している。

アメリカもカナダも東西に幅がある。その距離は 5,000 km ほど、飛行機なら 5 : 30、バスや鉄道だと 2 日半から 3 日かかる。時間帯は本土の 4 つにアラスカとハワイの時間帯が加わる。カナダはアメリカ本土の 4 つに大西洋とニューファンドランド時間が加わる。

第二次世界大戦後、ほぼ 40 年にわたって、アメリカと旧ソ連は対立を続け軍備を拡張してきた。普段目にしている地図では解かり難いが、北極中心の地図を見ると、今のロシアを中心とした旧ソ連は、地中海の北極海を挟んで、カナダ、アメリカと向き合っている。言わば隣国関係にある。ただし、1991 年のソ連解体で米ソ対立、東西対立の時代は幕を閉じた。



【資料】 民族ジョーク

この世の天国は、日本女性を妻に娶り、イギリス風の家に住み、中国料理を食べ、アメリカ人の給料を得ること
この世の地獄は、アメリカ女性を妻にし、日本のウサギ小屋に住み、イギリス料理を食べて、中国人の給料を得ること

最も望ましい人間は、英国人のように料理が上手で、ロシア人のように酒を飲み、フランス人のように協調性がある、イタリア人のように紳士的で、ユダヤ人のように気前が良く、アメリカ人のように倏約家で、カナダ人のように存在感があって、中国人のように法を守り、インド人のように時間を厳守し、日本人のように個性的で、ドイツ人のようにユーモアに富んだ人のことです

アメリカ（アメリカ合衆国）

アメリカはアラスカとハワイを含めた 50 の州の他にプエルトリコ、バージン諸島、軍事基地と観光で知られるグアム島、ミッドウェー、ウェーク、ジョンソンなどの島々の連邦区からなる連邦共和制国家である。その面積は、ロシア、カナダに次いで広く、日本の 25 倍に及ぶ。



アメリカの国旗は、一般には「星条旗」(the Stars and stripes) だが、正式名は合衆国旗 (Flag of the United States) で、縞模様は独立当時の 13 の入植地を表し、星は現在の州の数を表している。

ところで、アメリカが合衆国と呼ばれる前は、アメリカ共和国あるいはアメリカ共治国などと表示されていた。1840 年代にマカオに住んでいた中国語に精通したドイツ人宣教師たちによって「合衆国」という言葉がつけられ、1850 年前後に中国経由で日本に入ってきた。



大統領マトリョーシカ（ブダペストで購入）

“the United States” をそのまま訳せば、「合十 州国」各州が合わって成立した国となる。一方、合衆国となると、衆は people に通じ、様々な人種や民族含む多くの人々が合わさった国となる。アメリカ合衆国は、独立国にも等しい強い自治権

をもつ州で構成されているが、様々な多くの人々が一緒に協力し合う「衆が合する国」、「合十衆国」である。言い換えれば、大衆によって運営される国、共和制体の集合体ということになる。

2021 年、46 代バイデン大統領を迎えアメリカ第一主義から国際協調路線を目指したアメリカが歩み出したが、第二次トランプ政権（2025/1/20）発足当初から「アメリカファースト」を掲げ前政権から大幅な方針転換に踏み切った。

<人種のサラダボウル>

アメリカは多くの移民を受け入れ、多数の人種、民族が独自性を保ちながらアメリカという社会で生活している。その様相はサラダボウルに例えられている。様々な野菜や果物から成立っているが、トマトはトマト、レタスはレタスとして原形を保ちながら、ドレッシングをかけられた一つの

料理である。アメリカも同様に多くの人種、民族が「アメリカ」というドレッシングで調和のとれた国家を意味している。なお、アメリカ商務省の調査（2011）によると、人口の1/7が、家では英語を使用していないと回答し、そのうち半数が英語を話せないと答えているという。このほとんどがヒスパニック(*)で、アメリカの人口の16.7%を占め、黒人を上回っている。



帝国書院 新詳高等地図 P.76③を基に作成

(*) ヒスパニック アメリカにおけるスペイン語を日常語とするラテンアメリカ系住民の総称。主にメキシコからの移民が多い

<アメリカの原風景>

ネバダ州ラスベガスの東、ユタ州とアリゾナ州の州境にパウエル湖という人造湖がある。ここを中心に半径 230 kmの円を描いたとき、そのサークル中に含まれるエリアをグランドサークルと呼んでいる。ここに 10 の国立公園、16 国定公園、19 の国立モニュメントや州立公園が集中している。

モニュメントバレーには荒野の置き土産のような茶褐色の残丘が聳え立っている。気温の変化、風雨などの自然の力で削られて台地あるいはテーブル状になったものがメサ(Mesa)(次頁 写真右)、更に浸食が進むと第二段階のビュート(Butte)(写真左)、そして最終段階のスパイア(Spire)(写真中央)で、先端が尖がった記念碑、モニュメントのよう芸術的なものになる。高さは 300~400m もあり、1 億数千万年の時間を費やして形づくられたものである。

果てしない荒野、荒涼とした岩山は辺境特有の風景で、かつて西部開拓期の夢や希望などの可能性を秘めていた頃の風景そのものである。この風景を好んで映画に取り入れたのがジョン フォード監督で「駅馬車」、「黄色いリボン」、「荒野の決闘」などなどが思い浮かぶ。アメリカ人にとっての時代劇は西部劇であり、西部劇に潜む深層意識や潜在意識こそが、時を越えてアメリカ人の心に流れているところから「アメリカの原風景」と言われているのだろう。今日でも良く見かけるアメリカ人のウエスタンハット(カウボーイハットとほぼ同じ)はアメリカ伝統文化の一つとして「古き良き西部」への郷愁として凝縮されている感じがする。



モニュメントバレー（ユタ州～アリゾナ州）ナバホ族の聖地

＜西部劇の舞台裏＞

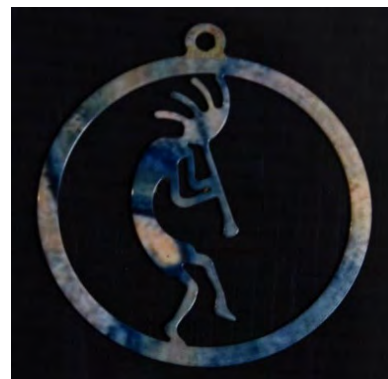
かつてのアメリカは南と北、今日では北東部、中西部、南部と西部に分けられる。そして、それぞれの地域を舞台にした小説や映画が数多く残されている。しかし、西部は別格で「西部劇」という言葉が存在している。ここでいう西部とは特定の地域を指すよりも、開拓者たちに夢や希望、可能性を秘めた土地と考えられる。西部劇ではモニュメントバレーをはじめとする大自然とともに、そこに生きる人たちの冒険、勇気、正義、独立心などが好んで描かれている。

西部劇では、日本の時代劇と同様にヒーローと悪人との対立として描かれている場合が多い。映画の舞台となる土地は、元々は先住民、ネイティブアメリカンのものである。この豊かで安い土地を求めて入植者が西に進んでくる。彼らにとって土地所有者の先住民は邪魔者であり、排除されるべき存在であり、先住民の土地は一方的に奪われたのである。この土地略奪は1622年～1890年の長きにわたって続いた。1867年～1875年のコマンチ作戦もその一つで、ミズーリ方面の指揮官フィリップ・シェリダン少将がコロラド、カンザス、ニューメキシコとテキサス境界に散らばる先住民を掃討作戦だった。降伏の交渉にきたコマンチ族の老酋長が「私は良いインディアンだ」と述べると、シェリダン少将は「良いインディアンは死んだインディアンだ」(The only good Indian is dead Indian.)の暴言を残している。以後、この言葉が先住民討伐を正当化する口実に使われたという。当時の先住民と戦い、土地の略奪の内容は、先住民の集落を襲い、無抵抗に近い彼らを一掃した一種の民族浄化(*)であった。

なお、アメリカの州名には、ネイティブアメリカンの言葉に由来するものが50州のうち25州にのぼる。テキサスは「友情」、オクラホマのオクラは「民族」、ホマは「赤」、つまり赤色人種＝ネイティブアメリカンを表している。オハイオは「赤い河」、ミシガンは「雄大な水」、ミズーリは「大きな河」、テネシーは「曲りくねった河」、ミシシッピは「水の父」、コネチカットは「長いながい河」、ワイオミングは「広い平原」などなどである。他にもシカゴ、ミルウォーキーやシアトルなどの都市名、ナイアガラやアパラチャ山脈、ミシシッピやコロラド川、五大湖のスペリオル湖を除く4湖などの自然地名にも見られる。

(*) 民族浄化 次世界大戦でのナチスドイツによるユダヤ人排撃、1948年からのイスラエルからのパレスチナ追放、1992～1995年ボスニア内戦によるセルビアとクロアチア人の対立、ロシアから分離独立を求めるチェ

チェン共和国の分離独立運動、アフリカルワンダ内紛によるフツ族とツチ族の対立、2017 年ミャンマー政府によるロヒンギアの弾圧と虐殺、近年の中国によるウイグル族の弾圧、チベットの中国化など枚挙にいとまがない。民族浄化を見る限りヒトという人間は、進化を忘れた生物に思えなくもない



ネイティブアメリカンのお守り

左：馬の尻尾のお守り（モンタナ州）馬は縁起の良い動物。合格や豊作を運んでくる

中：ドリームキャッチャー（カナダ アルバータ州）

右：ナホバ族に伝わるココペリ 幸運の天使（魔除け）（アリゾナ州）

奴隷制度

アメリカ合衆国の奴隷制度の歴史は、イギリスがヴァージニア植民地に入植した直後から始まった。そして、1645 年代から 1865 年までの間、合法的に奴隷化が進められた。主な所有者は南部の白人で、南北戦争以前は南部の 4 家族のうち 1 家族が奴隷を所有しており、人口の 1/3 を占めていたという。17～19 世紀にかけてアフリカ大陸からアメリカに連れてこられた黒人がおよそ 1,000 万人を超えた。



アメリカの南部と北部を分

ける境界線はオハイオ川で、 「奴隷解放の父」(5\$紙幣)

ペンシルベニアとメリーランドの州境となっている。

ここを境に、北部のニューイングランド地方では産業革命が起こり、工業化の道を歩み出した。一方、南部は奴隷制度をもとにした農業が続いていた。この違いから 1861 年に南北戦争が始まる。

戦争終結の 1865 年に憲法が改められ、奴隷は正式に解放された。しかし、黒人差別が続き、白人と同等の権利を要求する運動が本格化するのは 1950 年代後半になってからである。公民権運動で忘れてならないものに、キング牧師が指導した非暴力、直接行動が知られている。

今日のアメリカの人口構成 (2010 年) は、白人 72.4%、アフリカ系黒人 12.6%、先住民族イ

ティブアメリカンとイヌイト 0.9%、アジア系 4.8%、太平洋先住民 0.2%、その他の人種 6.2%



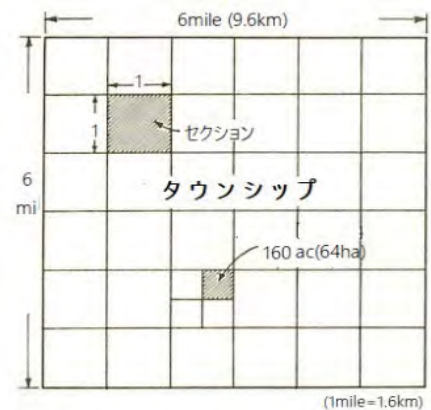
となっている。

タウンシップ制度

西経 100 度は、年平均降水量 500 mmの線及びクレートプレーンズとプレーリーの境とほぼ一致する。これより西側、ロッキー山脈寄りには乾燥した地域となる。ロッキー山麓の東に広がるクレートプレーンズは、カナダのサスカチュワン州からアメリカのテキサス州まで広がる台地状の大平原で、アメリカ本土の面積の 1 / 6 を占めている。標高は西側の 1,600m から東に向かって次第に低くなり、プレーリーとの境付近では 500m 前後となる。これに対してプレーリーは背の高い草が生い茂っていた地域で、肥沃な黒色土が分布しており、後に世界でも有数の農業地帯となる。

アメリカが独立した時、アパラチャ山脈からミシシッピ川以東の土地がアメリカに分け与えられた。ここの開拓を促進するために導入されたのがタウンシップ制度であった。開墾すれば 5 年後にその土地の私有を認めるという自営農地法的なものであった。平安時代の墾田永年私有令に似ており、開墾、開拓による農地の拡大が目的だった。

道路の間隔は 1 マイル、約 1,600m である。この 1 マイル四方をセクションと呼び、セクションを 4 等分した正方形の面積が 160 エーカー、約 64ha で、自営農民に与えられた土地である。この制度は、カナダやオーストラリアでも同じ制度の名称として使われているし、日本の屯田兵村のモデルとなった。



＜ジーンズのはじまり＞

ジーンズはアメリカで生まれた。1848 年、カリフォルニア州のシェラ ネバタ山中で金鉱が発見され、ゴールドラッシュを迎える。その中にヨーロッパからやってきたドイツ生まれのリーバイ ストラウスがいた。彼は幌馬車用の布地やテントのカンバス地を売っていたが、岩場で働く人々が丈夫なズボンを欲しがっていることを知り、幌馬車用の布地でズボンをつくり、金鉱労働者の作業衣として売り出したことに始まる。世界最大のジーンズメーカー「リーバイ ストラウス リミテッド」は彼が設立した会社で、現在も「会社設立 1850 年」と焼ゴテでスタンプした皮パッチがついている。

その後、様々なジーンズがつくられ、大工や農夫、車の運転手用の作業着から遊び着として広まっていった。世界大恐慌が始まり失業者が街に溢れるようになると、実用的で安価なジーンズがよく売れたという。1950 年代、アメリカ映画「エデンの東」がヒットし、ジーンズ姿で主演を演じたジェームズ ディーンが人気を集めた。ロック歌手エルビス プレスリーもジーンズ姿でうけた。その後、ジーンズはアメリカや西ヨーロッパだけでなく、旧ソ連や東ヨーロッパの若者たちの間にも、格好よいものとして広まった。

ジーンズの生地を織るとき、縦糸にインド産インディゴブルー、または化学染料で染めた糸を使い、横糸に漂白した糸を使用し、表が藍、裏が白になっている。そして、染色する時、糸の芯まで染めなくて、何度も洗って、糸の表面が磨り減って色あせてくると独特の風合いが出てくるのを良しとしている。今日ではグラインダーなどで布地の表面を削り、初めから色あせたものが出回っている。アメリカの厳しい開拓期に生み出されたジーンズだが、ハンバーガーやホットドック、ドーナ

ッツなどの食べものもまた同じ環境下で育ったアメリカ文化である。

＜テンブル スクエア＞

グランド アメリカン アドベンチャーズの現地発着ツアー、ソルトレイクシティ集合、シアトル解散の「イエローストーン ワイルドライフ トレールズ」に参加するため、シアトル経由でソルトレイクシティ入りした。湖岸は塩で白く縁取られたソルトレイクを反対側座席の窓越しに見ながらのランディングだった。

翌日、ツアー開始前の時間を利用してソルトレイクシティの中心地テンブルスクエアを目指して歩き始めた。ここは末日聖徒イエス キリスト教会、通称モルモン教の聖地である。公園ともいえる広さで手入れの行き届いた花壇に囲まれた教会施設が建っており、スクエア内は自由に散策可能であった。市内地図を開いた時、「テンブル スクエア」の名称が気になった。ソルトレイク神殿のテンブルに由来していることに気が付くまでしばらく時間を要した。



モルモン教の知識は、2 人一組で布教活動している宣教師との語らいが唯一のものである。ジョセフ スミス ジュニアによって設立されたアメリカ生まれのキリスト系新興宗教。勤勉を奨励し禁酒、禁煙さらには茶やコーヒーなどに含まれるカフェインを避けるなど質素な生活で堅実な生活習慣。収入の 10% をモルモン教への献金義務。現在は廃止されているが一夫多妻を認めたことから、異端とみなされ迫害を受けたことなどなどである。

イリノイ州から逃れてきたモルモン教徒によって荒涼としたソルトレイクの地を切り拓いた歴史からユタ州民の 60%、ソルトレイクシティ市民の 80% がモルモン教徒である。当然、戒律の厳しい宗教の信者が多く占めるユタ州、ソルトレイクシティの治安は合衆国の中では良好だという。なお、世界の信者は 176 カ国、1,500 万人（2010）。

広場の中心は荘厳な白い 6 つの尖塔を持ち独特な構造のソルトレイク神殿である。城郭にも見えるが外壁には繊細な模様と彫刻で飾られていた。内部には入れないが、南訪問者センターに神殿の縮尺模型があった。また、ソルトレイクシティ開拓の様子を説明する展示もあり、なかなか見応えがあった。

大礼拝堂の正面には世界最大と言われるパイプオルガンを背にしてスピーチが行われていた。スピーチ席を取り囲んで明るく温かみのある木製の椅子が取り囲んでいた。半分くらいが埋まっていたが、圧倒的に若者が多い。



スピーチの後、圧倒的な音量で響き渡るパイプオルガンの音色に合わせて聖歌が流れた。

大礼拝堂からテンブルスクエア出口に向かっていている時、施設の説明を申し出してくれる人もいた。そして、多くの笑顔に出会えた。宗教は違っても教義の本質は同じなのに日本の神社仏閣では見ら

れない光景だった。余韻に浸りながら街に出たが、テンプルスクエアの存在感は圧倒的であった。

<ルート 66>

「国道 66 号」というと何の変哲もないが、“ROUTE 66”と英語読みになると俄然輝いてくる。イリノイ州シカゴからミズーリ州 — カンザス州 — オクラホマ州 — テキサス州 — ニューメキシコ州 — アリゾナ州 — カリフォルニア州サンタモニカを結ぶ全長 3,750 km、8 州を通り合衆国を横断する最初の国道である。大陸横断鉄道建設資材運搬が目的だった言われているが、モータリゼーション全盛幕開けの 1926 年完成し、多くの人々が夢と希望を抱いて新天地へと移動した道でもある。アメリカのど真ん中を西に向かって走る”ルート 66”には荒野へ向かう挑戦、勇気などのフロンティアスピリットが伝わってくる。

ジョン スタインバックは「怒りの葡萄」で、このルートを「マザーロード」と呼んだ。小説、映画そして音楽で取り上げられたルート 66 も時の流れとともに衰退へと向かう。その始まりはアウトバーンに倣った高速道路網の建設だった。合衆国内の主要な国道は州間高速道路に代わり、1984 年、アリゾナ州で高速道路完成により”ルート 66”は国道としての役目を終え、59 年の歴史に終止符を打ってしまう。

しかし、歴史的な”ROUTE 66”の復活にセリグマンに住む床屋のエンジェル小父さんと、アイスクリーム屋のホアン小父さんの 2 人が立ち上がりアリゾナ州議会に保存を訴えた。後に、ルート上の住民の盛り上がりで後押しされて、現存するルートには”Historic Route 66”の標識が立てられ、見事に復活した。



床屋のエンジェル小父さん

第二次世界大戦中は軍事品を運び、戦後はアメリカ原風景への観光客を運び、今日では道路沿いには昔懐かしい建物を復旧するなどの運動が起きている。歴史的なルートの意味、重要性が見直され、アメリカだけでなく世界の人々に新たな希望、愛、チャレンジを与えてくれるのがルート 66 だと言える。



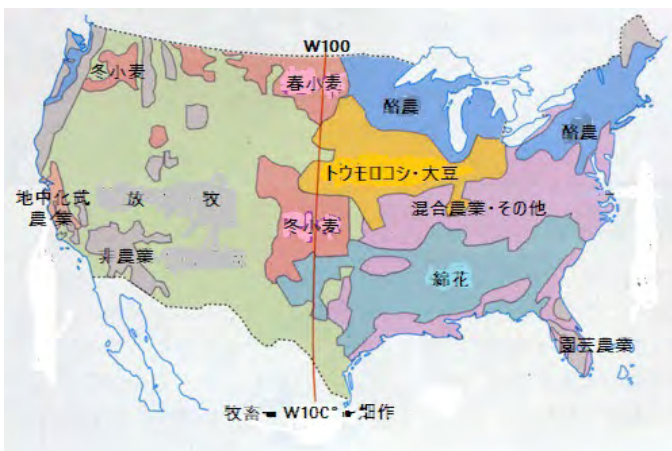
世界の食料庫

アメリカは国土のおよそ 17%が耕地面積（日本 11.8%）（2022）で様々な農産物を栽培し、

その多くが世界1の生産量を誇る農業国である。北アメリカには、カナダからメキシコ湾にのびる中央平原がある。アメリカではミシシッピ川流域とほぼ一致し、アメリカ総面積の約半分を占めている。そして、西経100度を境に、東側をグレートプレーンズ、西側をプレーリーと呼んでいる。

カナダからモンタナ州東部、ノースダコタ州にかけては、春に種を蒔く春小麦地帯で冬の厳しい寒さを避けて栽培される。これに対して、秋まきの冬小麦地帯はカンザス、オクラホマ両州の中部、西部及びテキサス州の北部まで広がっている。この二つの小麦地帯には含まれたカンザス北東部、ネブラスカ東部、サウスダコタ東南部は、トウモロコシ地帯でコーンベルトと呼ばれ、世界の約半分を生産している。トウモロコシの裏作として大豆が栽培され、多くは牛、豚の肥育用飼料となる。戦後、日本が味噌や醤油、豆腐や納豆の原料として大豆を輸入し始めた時、日本にはそんなに多くの牛や豚を飼育しているのがという質問があったという逸話が残っている。

アメリカの農業は適地適作主義で、気候や土壌に適した作物が単一耕作なので農業地域区分が形成されている。アメリカの農家1戸の平均耕地面積は185haで、日本の2haとは大違いである。



そして、アメリカ農業の底力は生産性の高さにある。アメリカの農民1人で109人分の食糧を生産し、農民1人当たり生産はフランスの4倍、旧ソ連の10倍である。

アメリカの農業を支えているのは農産物生産の他に、シカゴを中心とする農産物加工工場や農業機械工場、さらには農産物の貯蔵、輸送に関わる産業、ウィスコンシン州を中心とする牛乳の加工と幅広い。このように農業に関連した産業を総称してアグリビジネス、農業関連産業と呼んでいる。

アグリビジネスは発展し続け資材、肥料、種子の供給や、農産物の販売を通じて農業を支配し、自らも大規模な灌漑農業を営むまでになった。

アグリビジネスで最も力をもっているのは「穀物メジャー」といわれる会社で、穀物の貯蔵、輸送、販売を行う世界的な大企業のことである。アメリカのカーギル、コンチネンタル・グレイン、オランダのブング、フランスのルイ・ドレフェス、スイスのアンドレなど世界大手5社を指している。1990年代、5大穀物メジャーで世界の穀物流通の70%が扱われた。

【資料】食料は武器

1973年、ニクソン大統領が大豆の輸出を全面的に禁止した。日本ではその直後から豆腐や醤油の値段が高騰し、輸入飼料に依存する畜産物価格も急上昇した。一方、カーター大統領は、1979年10月、旧ソのアフガニスタン侵攻に抗議して穀物輸出を禁止した。また、レーガン政権の農務長官だったジョン・ブロック氏が、1981年に「食料は武器である」と発言して注目を集めた。

【資料】アメリカ小麦戦略

第二次世界大戦後、日本で食糧不足で苦しんだ。特に1938年生まれ世代で「サツマイモジェネレーション」と呼ばれた世代である。この時、日本生まれのコッパパンと脱脂粉乳で学校給食がスタートした。パンの原料はアメリカの余剰小麦で格安で販売された。これには小麦輸出先にするための戦略が込められていた。戦後の1950年代、「粒食の飯より粉食のパンを・・・」との触れ込みで、当時の厚生省、農林省、文部省

は

アメリカの指示通りに動いた。その結果、米食を否定しパン食への転換が進められ、パン食が学校給食に導

入された。日本の食生活の変化によりコメ離れが進み安いアメリカ産小麦の輸入で国内の小麦生産はほぼ壊滅的な状までに落ち込み、日本農業への大打撃となった。ところが、近年、世界的な健康志向の高まりから日本食ブームが起こり、パン食を勧めたアメリカで、米はヘルシーフードとして、米食が人気を集めているのは何とも皮肉である。

＜アメリカの普通の食事と和食の素晴らしさ＞

アメリカの食文化を代表するものにハンバーガーがある。日本のものと比べると圧倒的にボリュームが違う。アメリカ人の食べる量は半端ではない。さらにポテトチップスやクッキー、ドーナツなどをコーラで流し込む。最後にプラスチックのナイフやフォーク、紙の皿、コップなどがゴミ箱に大量に放り込まれる。

アメリカの食事の特徴は、

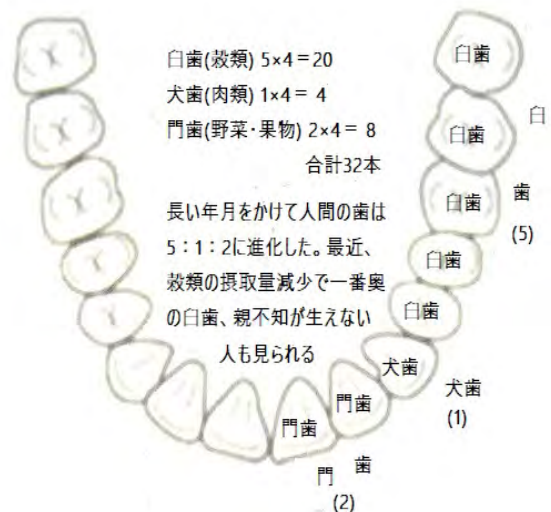
- ① 量が多い。とにかく食べる。昼食のハンバーガーは、標準的な日本人のゆうに2食分を越える。
- ② 甘い。クッキーなどの甘さは半端でない。日本人の甘党でも閉口する甘さである。
- ③ 野菜が少ない。日本でも外食すると野菜不足になるが、アメリカでは不足の程度が違う。下手するとハンバーガーに入っていたピクルスが唯一の野菜ということにもなりかねない。その反動だろうか、ステーキを食べる時にサラダをオーダーすると洗面器の様な器に山盛り出てくる。日本なら優に3人分はある。
- ④ 冷凍食品やシリアルが多い。スープ、ピザ、パスタ、デザートなど、ありとあらゆるものが冷凍食品になっている。また、朝食イコールシリアル、コーンフレークの感さえある。

このような特徴から肥満者が増加してきたことから長寿国日本の食への関心が高まっている。一方、日本では魚から肉への移行など欧米型の食事への関心が高まっている。アメリカの食事を反面教師にして和食を考えて見たい。

「和食」の主役は米のご飯である。ご飯を美味しく味わうための献立が「一汁三菜」で、一汁は味噌汁や吸い物で、三菜は「主菜」と「副菜」、そして「副々菜」である。一汁も三菜とも、季節の食材を中心に用いる。

これが和食の基本だが、和食の辿ってきた道は、実はヒトのたどった進化の道でもある。生物はすべて長い進化の過程を経て、種の保存に最も都合のよい、生き延びるための形を形成してきた。

人間の歯は全部生え揃えば32本ある。固い穀物をすりつぶす臼歯が一番多くて20本。次が野菜や果物を食べる前（門）歯で8本、そして肉などを食べる犬歯が4本である。この歯の構造は、人間が長い時間をかけて身につけたもので、いわば「食べる法則」みたいなものといえる。人間は一日のカロリーを穀物から60%とり、野菜などの植物から25%、そして肉や魚などから15%とるのが、歯の構造から見るかぎり理想的といって良い。そして、人間の歯の構造に近い食べ方をしてきたのが日本人で、今や世界の長寿大国になった。食べ方の正しかった証明でもある。



南北戦争後、北東部のニューイングランドから始まった近代工業は、中部や西部、さらには南部へと急速に広がり、第一次世界大戦後にはアメリカは世界一の工業国となった。1970年代になると、北緯 37 度線付近以北のフロスト（スノー）ベルト、北東部や中西部一帯に立地していた自動車や鉄鋼など重厚長大型の工業、家電や繊維産業などは石油危機による価格の高騰や賃金上昇によって業績が悪化した。さらにアジアからの高性能で安価な輸入品の増加でより不振に陥った。これに対して、北緯 37 度線付近以南のサンベルト、南部や西部に立地している航空、宇宙産業、コンピュータ、エレクトロニクス機器や部品、医療機器などの先端技術（ハイテク）産業が目覚ましい成長を遂げた。また、工業ではないが情報、金融などのサービス産業も大きく成長した。

20 世紀の工業を象徴するのが自動車である。1908 年、ヘンリー フォードが発売した T 型フォードが爆発的に売れ、人々の生活を一変させた。この自動車産業の中心地がミシガン州デトロイトで、ゼネラルモーターズ、フォードモーター、クライスラーの自動車ビッグ 3 の本社はデトロイトかその近郊に置かれ、アメリカ工業の象徴的な存在であった。

ところが、1980 年以降の日本車の大量流入、資源を海外から輸入するようになり五大湖沿岸の鉄鉱と石炭などの資源が五大湖の水運で結び付きの立地基盤足もとから揺らぎ、加えて、設備更新の遅れ、人件費の高騰などから、この地域から工場を撤退する企業が 出始め産業の空洞化が目立ち始めた。そして、遂に 2009/4 クライスラーが、2009/6 にはゼネラルモーターズが破綻してしまった。フォードモーターは破産法の申請を免れたが、大事なブランドをボルボに売却し辛うじて難を逃れた。



T 型フォード模造品（キューバにて）

ミシガン湖畔、イリノイ州のシカゴは、合衆国中部地域の行政、経済、交通の一大中心地で、ニューヨーク、ロサンゼルスに次いで 3 番目に大きな都市である。トウモロコシ、小麦地帯を後背地としているため農産物の大集散地であり、大規模な家畜市場がある。シカゴ商品取引所は世界の小麦価格が決定されるといわれている。他にも電気通信などの機械工業、付近の石油、石炭の産出により重工業地帯も形成されている。

シカゴは湖岸から内陸に 10 数km入ると、比高 30m 程の氷河期の名残の堆積丘が連なっている。これが北アメリカ大陸の南北を分ける分水嶺で、ここを境に南はミシシッピ川の流域でメキシコ湾に、北は五大湖を経てセントローレンス川の流域となる。この低い分水嶺にイリノイ ミシシッピ運河が掘られ、ミシシッピ川と五大湖が、さらにはハドソン川沿いのニューヨークとも水路で結ばれ、シカゴの経済発達の基礎となった。

【資料】内陸都市シカゴとヨーロッパを結ぶ航路

船でニューヨークからハドソン川を溯り、ニューヨーク州バージ運河を通してエリー湖に入る。さらにヒューロン湖経由でミシガン湖に入り、内陸部最大の都市シカゴのシカゴ港に寄港。閘門式運河のイリノイ ミシシッ

ピ運河を通りミシシッピ川に入って、小麦集散地で知られるセントルイス経由で、ジャズ発祥の地で知られるニューオリンズに出て、ヨーロッパへと向かう。

<日本車の波>

ユタ州から始まった車の旅は、ワイオミング、モンタナ、アイダホを経て 17:00 近くにワシントン州シアトルに入った。片側 6 車線の車道は車で溢れていた。道路を埋め尽くす車、乗用車の半分以上、6~7 割が日本の車であった。しかも、日本の 6~7 社のメーカーの車が混じりあってスピードを競い合うように走っていた。ここはアメリカ太平洋岸ワシントン州の光景である。これまで途中で立ち寄ったスーパーマーケットの駐車場でも同じような光景を見てきた。これでは日本車がアメリカで袋叩きにあうのも頷ける。

2016 年、アメリカの新車販売台数のほぼ 40%を日本車が占めている。しかも、アメリカでの車種別販売数を見ると、1 位から 5 位まで日本車が独占している。SUV においても 5 位までのうち上位 3 車種が日本車だという。

ところで、自動車王国アメリカでの日本車の人気の秘密は何だろうか。燃費が良い、比較的安価である、故障しないといったやや消極的な理由は勿論だが、近年はデザインでも選ばれるようになったという。これらに加えて、アフターサービスの良さ、パーツ供給の速さも日本車モテモテの理由の一つだという。

日本車はアメリカでは外国車に違いないが、アメリカで走っている車の殆どは、アメリカの工場で、アメリカ人の労働者が組み立てている。ひょっとすると、日本というよりアメリカの車意識の方が強いのかも知れない。日本車でも見慣れた車もあれば、一回り大きなアメリカ仕様の車もありで、アメリカの地で、アメリカの車文化に日本車は完全に溶け込んでいるように思えた。

<履歴書>

アメリカに住む知人が失業した。新たな職探しの時、履歴書のことが話題になった。日本のものと余りにも違うことに驚いた。基本的に年令も性別も書かない。当然、写真を貼ることもないという。写真によって、性別、年令はもとより、人種、身体的な特徴、障害の有無までわかってしまうからだ。年齢について尋ねていけないのは、アメリカは能力主義の社会だからだという。性差と同じように、能力も年齢とは無関係なので、仕事と年齢を結びつけて考えるはいけないというのだ。そのほか、趣味など仕事に関係のないことを聞いて、採用の基準にすることも駄目だという。日本式の履歴書を書くと、氏名と経歴と資格くらいしかない。人権に厳しいアメリカが履歴書も表れている。

<五大湖の水質汚染>

冬のナイアガラ滝を見るためオンタリオ湖岸に飛んできた。五大湖は日本の本州と四国を合わせた面積に匹敵する。その湖岸はアメリカの西海岸、東海岸、メキシコ湾岸に次ぐ第四の海岸、北アメリカの地中海などとも呼ばれ、運河によってヨーロッパ、中東そしてアジアとも繋がっている。スペリオル湖を除く 4 つの湖の呼称は、それぞれの湖岸に住んでいたネイティブアメリカンの言葉に由来している。なかでもオンタリオ湖は、イロコイ族の言葉で「美しい湖」、「輝く水」に由来し、彼らは一昔前まで釣りをし、食料となる魚を得ていた。しかし、その後、乱獲や運河の完成による魚の天敵、ヤツメウナギの繁殖などにより漁業は衰退していく。

これに追い打ちをかけたのが 19 世紀後半から始まった周辺の工業化、都市化による生活排水や工業排水の増加による水質汚染である。五大湖西の鉄鉱石と春小麦、南部の炭田と油田が五大湖の水運で結び付き、北アメリカ有数の工業地帯となった。オンタリオ湖南岸のロチェスターからエリー湖南岸のバッファロー、エリー、クリーブランド、デトロイトと都市が連続し、ミシガン湖南西

岸にはシカゴ、ミルウォーキーと連なっている。一方、カナダでもエリー湖北岸からオンタリオ湖北岸を経てセントローレンス川河口までは、カナダの人口の半分以上が集中する産業集中地帯となっている。

このように五大湖沿岸は、アメリカとカナダの重化学工業を支えてきた地域で、長年にわたり大量の水銀、PCB（ポリ塩化ビフェニル）、ダイオキシンなどの有害廃棄物が排出されてきた。その多くが湖水や湖底に蓄積されている。また、農業肥料や農薬が流入も指摘されている。なかでもオハイオ州北西部を流れクリーブランドでエリー湖にそそぐカイヤホガ川は、廃油汚染により1969年までの約100年間に13回も炎上した。これにより五大湖の環境保全を意識し始め、1970年代に州を越えて浄化運動が始まった。2009年にはオバマ大統領により五大湖の環境修復に向けて研究基金を立ち上げた。

湖岸の人々にとって恵みの湖のはずであったが、夏には遊泳禁止となり、オンタリオ湖の水で手を洗うと前より汚くなると言われている。ところが、五大湖の水質汚染が日本で話題になることは殆どない。



ナイアガラ滝の飛沫が凍り付く



冬のオンタリオ湖

<核実験場とガン患者>

アメリカの西部には3列の山脈、海岸山脈、カスケード山脈とシェラネバダ山脈、ロッキー山脈がある。シェラネバダ山脈とロッキー山脈の間にグレートベースンがあり、ネバダ州を中心にオレゴン、アイダホ、ユタ、カリフォルニア州にまたがっている。ここは太平洋からの湿った空気はシェラネバダ山脈で、大西洋やメキシコ湾からのものはロッキー山脈で遮られてしまうので、アメリカで最も乾燥しており、沙漠が広がっている。

沙漠には定住者が少ないことからネバダ州に核実験場、アリゾナ州には海兵隊と空軍の大規模な演習場と空軍基地、カリフォルニア州モハーベ沙漠にはエドワード空軍基地がある。そして、1951年から1992年までの間にネバダ核実験場で928回の原爆実験を繰り返した。

1954年、ネバダ州隣のユタ州でジョン・ウェイン主演の「征服者」、モンゴル帝国初代皇帝チンギス・ハーンの若きテムジン時代のストーリーのロケが長期間にわたって行われた。その後も彼は西部劇の撮影のためユタやアリゾナ州に長期間滞在した。10年後、ジョン・ウェインは肺ガンと診断された。その後胃に転移、1979年、大腸ガンで死亡した。「征服者」の相手役スーザン・ハイワードが1975年、監督のディック・パウエルが1963年、ガンを患い亡くなっている。さらに、映画関係者だけでなく近くの市民や、ネイティブアメリカン居住地でも癌の発症率が異常に高いことがわかってきた。また、西部劇関係者に限らずハリウッドに居住する俳優、女優を含む映画関係者

の多くがガンで亡くなっている。かつての「ネバダ核実験場」は、2010 年から「ネバダ国家安全保障施設」と名称を変更している。

国立公園の先駆け

西部の開拓が進むにつれて自然破壊が進んだ。それに気付いた人達を中心に大自然の美しさを守ろうという運動が始まった。そして、世界で初めて「国立公園」という考え方が生まれた。この国立公園の存在意義を世界に広めたことから「合衆国が生んだ最高のアイデア」として高く評価されている。

アメリカ最初の国立公園は 1872 年、18 代大統領ユリシス グラントが「イエローストーン国立公園法」に署名したことに始まる。アメリカの広大な国土には、想像を超える様ざまな自然、地形、気候が存在する。静寂の尖峰、誰もが最低 100 回シャッターを切ると言われる幻想的な地形、神の創造物とされる火山地形、色鮮やかで繊細で美しい尖塔群の峡谷、神の国と呼ばれる荘厳な岸壁、自然という彫刻家の野外展示場など人類が守っていかなければならない地球の宝物が、原始風景のまま数多く存在している。アメリカの大自然は地球の自然博物館そのもので、国立公園法で守られ保存されている。



イエローストーン国立公園北門

FOR THE BENEFIT AND ENJOYMENT OF THE PEOPLE
(万人の利益と楽しみのために)

<イエローストーン国立公園>

イエローストーンは「アメリカで最も偉大なアイデア」と呼ばれる国立公園である。ワイオミング州、モンタナ州、アイダホ州にまたがる公園で、四国の半分ほどの広さで、1872 年世界初の国立公園となった。先住民族以外の人間が、この地に足を踏み入れたのは 1800 年後半とされている。見たこともない大自然の現象に心を動かされ、「この霊域はすべての人類、すべての生物に自由と幸福を与えるために神が創造されたもので、決して私有物にしたり、少数の利益のために開発すべきものではない」として、国立公園とすることを政府に提言したことが、世界で初めての国立公園に結び付いたという。この広大な公園は、200 の間欠泉、10,000 以上の温泉が湧く世界屈指の熱水現象集中地域で、火山国日本も遠く及ばないスケールである。また、森林、草原地帯はクマ、ムース、オオカミやバイソンなど希少動物の聖域でもある。

イエローストーンで過ごした 4 日間を振り返ってみると、様々な自然の表情が浮かんでくる。定期的に熱水を吹き上げる間欠泉、思わず息をのみ込んでしまう鮮やかな色をした温泉、黄色い峡谷と豪快な滝、幾重にも重なった石灰華段などなど、行く先々で異なった景色に出会えた。そして、これらを造った地殻変動が、今も活発で地球の生命の息吹を肌で感じ取れた。また、望遠鏡で、目の前で見た野生動物に一喜一憂したが、生息する種類からするとほんの一握りに過ぎず、公園全体像を捉えることなどできない。ただ漠然とスケールの大きさを感じたに過ぎなかった。

イエローストーンで見た景色は一目して火山地形である。しかし、高い山は見当たらない。山の部分が吹き飛ばされてしまい、山が無くなった火山であった。ビジターセンターで見た説明によると、山があったところに巨大な穴が開き、そこでマグマが煮えたぎっているのだという。これが地球の核と繋がっているというのだから、まさに地球規模の火山と言える。従って、今も地震、地盤の隆起、陥没といった地殻変動が日常的に起こっているという。この地の巨大火山活動の周期は 60～70 万年前後で、それに近づいているという。もし、このような火山活動に見舞われれば、公園



モーニンググローリープール



マンモスホットスプリングスの石灰華段



グランド プリズマティック スプリング

は完全に消滅し、火山から半径 1,000 km 以内の 90% は火山灰で窒息、地球の気温が最大で 10℃ 下がり、5～10 年は続くという。イエローストーンは人類の存続も危ぶまれる危険をはらんだ世界遺産であることを知った。

日本を振り返ってみると、富士山の噴火、南海トラフ地震が心配されるし、地元山形でも吾妻、蔵王、鳥海と 3 つの活火山を抱えている。火山は恩恵と危険が表裏一体であることを改めて認識した。

＜オオカミと食物連鎖＞

アメリカでは政策によって肉食獣とバイソンが駆除の対象となり、1926 年にイエローストーンからオオカミの姿が消えた。その数十年後、天敵のいなくなった大型の鹿、エルクが大繁殖し植物の生態系に変化が表れてきた。草食動物が好んで食べる樹木が減り、小鳥たちの数が少なくなった。オオカミの餌となっていたコヨーテの増殖で、コヨーテの餌である小動物が減少し始め、肉食の大型鳥類も減り始めた。

元の生態系を取り戻すため、オオカミを人間の手で再導入という「20 世紀最大の実験」がイエローストーンで行われた。1995 年、カナダからハイイロオオカミ 31 頭を空輸し放された。その後、オオカミの数は順調に増え、2008 年にはアイダホ、ワイオミング、モンタナの 3 州で 1,600 頭以上にまでになった。そのうちイエローストーン国立公園には 100 頭が生息しており、20 年後には以前の緑豊かな森が蘇ったという。



ルーマニア ブカレストにて

人間によって住处と餌となる草食動物を奪われた日本のオオカミは、人間に駆除される危険を冒して家畜を襲い害獣のレッテルを張られてしまい 1905 年に姿を消した。アイヌやネイティブアメリカンなど狩猟採集生活の盛んな民族の間では、オオカミは超自然の能力を持つ獣として神格化されている。古代ローマの象徴である「カピトリノの雌オオカミ」は、古代ローマ建国に関わったとされる双子の兄弟ロームルスとレムスをオオカミの乳で育てたとされている。そもそもローマという

名はロームルスに由来するというからオオカミはローマにとってシンボルでもある。また、「シー
トンの動物記」狼王ロボでは賢い動物として扱われている。その一方で、赤頭巾などのグリム童話
では、人間をも襲う悪役でもある。

日本では伝説に近いオオカミだが、イエロー
ストーンで野生のオオカミを望遠レンズ越し
に追いかけた時、堂々とした姿は何とも言えな
い風格を備えていた。そして、明らかに興奮し
ている自分がいた。



イエローストーン国立公園にてイエ立公園にて

<映画「シェーン」>

ワイオミング州ジャクソンは、開拓期の風情が感じられる街だった。街そのものが荒野の中に突
如現れた感じで、建物の殆どが丸太などの木造、メインストリートの歩道は板張りだった。行き交
う人々の多くがカーボーイハット姿で街の雰囲気になじんでいた。そんな時、メインストリート
に観光用の駅馬車が現れ、西部劇の舞台のような街の中をゆったりと通り過ぎて行った。

ジャクソンを通り過ぎ、アメリカの国立公園の中で最も美しいと言われるグランド テトン国立公園
に向かった。間もなく左手にゴツゴツとした 4,000m級の岩山が姿を現した。そして、見覚えのあ
る山の姿に変わり、草原を見下ろすように聳えていた。1953 年公開の西部劇、「シェーン」(*)で見
た美しい山々の姿であった。およそ 160 年前、アメリカ 16 代大統領リンカーンの時、西部の未開
発土地を無償で払い下げるという法律が施行され、辺境の地に多くの開拓農民が押し寄せてきた。
そこで繰り広げられたのが牧場主と開拓農民との土地争いであった。これを題材にした小説の映画
版である。



ワイオミングの壮大な自然美と、心に響く旋律の「遥かなる山の呼び声」が、見る人の心の奥深く
から包み込み 3 回見ても見ごたえのある映画であった。牧場主が雇った黒尽くめのガンファイター
と開拓農民宅に居候する流れ者シェーンの決闘後、ロッキーの岩山に向かって静かに去って行く後
ろ姿に、少年、ジョーイの“Shane, Come back!” の声を跳ね返していたロッキーの岩山が、66

年前と変わりなく聳え、草原が無限に広がり、風雪に耐え丸太造りの小屋が建っていた。

(*)1953 年 西部開拓期の開拓農民と牧畜業者との土地をめぐる対立を画いた映画「シェーン」の舞台となった。

第 26 回アカデミー賞撮影部門受賞

日本山岳会北海道支部「ヌプリ」vol.54 アメリカ 4,000m 峰の山旅 グランドティトン、グラニット ピーク
に登る 田中 健 登頂記録が記載されている

＜大きな空の邦と氷河公園＞

イエローストーン北口のキャンプ場から 670 km、ロッキー山脈に沿ってモンタナ州縦断ドライブが、グレッシャー国立公園へのファーストステージであった。大きく、緩やかに波打つ大地が地平線の彼方まで広がる光景は圧巻であった。大半は牧草地と牧場で 100m もあろう長いスプリングラで色鮮やかな牧草を育て、牧場は牛も馬も飲み込まれてしまいそうな広さだった。思い出したように小麦とトウモロコシ畑が見えてくるとぼつんと家屋が現れるが人影は見えない。しばらくして、地の果てまで続くこの大地が、グレートプレーンズの西端であることに気付いた。そもそもモンタナ州は人口が少なく、面積が広い州で、農業が主産業である。当然人口密度が低くなるから自然が残っている。こんなことから「最後の最良の地」のニックネームの所以だという。他にも「大きな空の邦」、「宝の州」、「輝く山脈の地」とも称され、車のプレートにもなっていた。そして、モンタナの風景が、旅の醍醐味が移動そのものであることに気付かせてくれた。

セカンドステージは、アメリカとカナダの国旗が翻るローガン パスからハイライン トレールのトレッキングである。人気コースだけに行き交う人々が途絶えることはなかった。出だしからゴールデン ウォール、岸壁を穿って造られたコースだった。このすぐ下を「太陽への道」(GSR = Going to the Sun Road)、車道が走っている。不注意に岩を落とせば車直撃となりかねない。全体的に



みるとローガン パスから北西に流れ出した氷河が削り取った氷食谷、U 字谷の谷壁に造られた車道であり、トレールであった。ここを過ぎるとなだらかな丘陵地が広がり、コロンビアジリス、ライチョウの仲間などが現れ始めた。雷光形のトレールを登ると 10 頭ほどのマウンティンゴートの群れが草を食んでいた。そして、足元にはストロマトライト、およそ 6 億年前の海の化石、地球最古の生命体が転がっていた。ここで昼食を取りビッグホーンシープの見送りを受け、同じ道を引き返した。

サードステージは、アイス バーク レークへのトレッキングである。どっか遠いところに来たという感じだったが、地図を広げてみると、昨日引き返したところの直ぐ北側で、大きく東の方から遠巻きしてメニー氷河案内所に着いた。文字通り沢山の氷河の跡、氷食谷の集まるところで、アイス バーク湖まで 8 km の入口だった。最初の緩やかな登りを過ぎたところの、右手上方の草原斜面を

ゆっくりと進むクマの姿が見えた。どう見てもクマエリアに人間が入り込んだ感じで、日本の人間エリアにクマがとは反対の感覚だ。クマ撮影時間を含めて 90 分ほどで、パタミーガン滝で一休み。この先は石ころの山路となったが、全体的にはなだらかな登り坂で歩き易い。木製の橋の懸かる小川を渡ると美しい蒼色の水に氷を浮かべた湖が見えてきた。背後には衝立のようにほぼ垂直の岩山に囲まれ、懸垂氷河から崩れ落ちた氷塊が浮んでいた。ゆっくりと昼食を取り、往路を引き返した。

地図を見ると、公園中央部を横断する「太陽への道」の最高地点、ローガン パス付近をほんのちょっとうろろうしたに過ぎない。「太陽への道」の直ぐ南側、公園南東部、さらには国境を超えウォータートンレイク国立公園と、まだまだ日本では見ることのできないフィールドが広がっている。ここだけに焦点を絞って 10 日間、2 週間のツアーを組むのもありかな?!と思えた。



なお、グレイシャー国立公園は、名称の通り氷河が削った険しい山肌をさらす山々とその間に広がる氷河湖の美しい公園で、氷河が造った美術館と呼ばれている。そして、カナダのブリティッシュ コロンビア州とアルバータ州と国境を接している。また、カナダのウォータートンレイク国立公園とも接しており、1932 年二つの国立公園を合わせてウォータートン グレイシャー国際平和自然国立公園となり、1995 年に世界遺産に登録された。

＜ロッキー山脈 ヴェールの休日＞

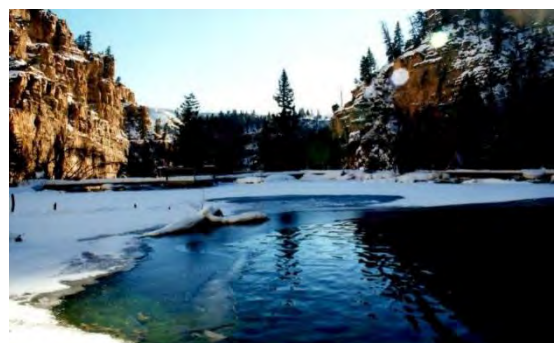
鳥海山山麓の遊佐町に ALT、英語指導助手で来ていたローラ女史の招きで 2001 年 1 月末、コロラド州ヴェールのコンドミニウムに居候しながらトレッキング、スキー、山小屋に泊ってのバックカントリースキーを楽しんだ。コロラド州はロッキー山脈が南北に貫いており、豊かな自然とアメリカらしいダイナミックな風景に恵まれた州である。州全体の平均高度が全米 1 で、4,000m を越える山が 54 座もある。言葉を変えれば、ロッキー山脈そのものの州といえる。それに魅せられてか古来より多くの先住民族、シャイアン、アパッチ、コンマンチなどが住みついていた地でもあった。

・ハンギングレーク

ヴェールから足慣らしを兼ねて最初に出かけたのがハンギングレークであった。途中しばらく走ったフリーウェイの両脇柵は、日本で見かけるアルミと違い不揃いの木柱と有刺鉄線であった。

ハンギングレークを耳にした時、吊り湖をイメージすることが出来なかった。そして何故か古代七不思議の一つ「バビロンの空中庭園」が脳裏をよぎった。

車を降りるとロッキーの名称通りの巨大な岩山がたちだかっていた。岩壁の割れ目に沿って伸びる踏み固まった急な雪路は、氷と赤茶けた岩が混じ



り合い、緊張が強いられた。標高が 2,000m を越えているが、所々にモミノ木が茂り、倒木が岩塊に引っかかっていた。ぱっと開けた平坦なところがハンギングレークであった。平らな岩棚に直径 30m ほどの湖が乗り、その先はバサッと切れていた。湖の奥に回り込み岸壁を背にすると、半分凍結した湖の端は空中に浮いていた。

・世界規模のスキーリゾート

州都デンヴァーの海拔高度が 1,609m であることから「マイル ハイ シティ」の愛称を持つ。ここから西へおよそ 200 km、アメリカを代表する世界規模のスキーリゾート、ヴェールとビーバークリークが隣接している。ヴェールのスキー場基部の高度が 2,475m で山頂は 3,527m、ビーバークリークは 2,469m と 3,488m で、鳥海山の山頂から富士山 9 合目に造られたようなスキー場だった。3,000m の乾燥したパウダースノーを「シャンペンパウダー」と呼び、雪の軽さと細やかさを強調していた。デンヴァーの気候を見ると、乾燥帯のステップ気候区である。年間の快晴が 115 日、晴が 130 日、曇・雨・雪が 120 日で、年間の晴天率がなんと 70% に近くで日本では信じられないスキー場だった。

スイスなどヨーロッパのスキー場の多くは、夏の放牧地、アルプがスキー場として利用され、リフトが掛けられ、自然発生的に生まれたものが多い。これに対して、ここは豊かな自然の中に最初からリゾート地として、アメリカらしいダイナミックな発想で計画的に造られたリゾートタウンであった。



ビーバークリーク背後のロッキーの山々

ローラ女史の仕事はビーバークリークでスノボードのインストラクターである。仕事場に向かう車に便乗してビーバークリークに向かった。スキー場は谷を挟んで長大なスロープが向き合うように設けられていた。ガイドマップに目を通せば何となく位置関係は把握できるが、コースに出ると瞬時に迷子状態だった。ところが、リフト乗車して安全バーを下ろすとガイドマップ出てくる仕掛けになっ

ていた。兎角退屈しがちなリフトでマップを広げることもなく、次に向かうコースを探せる粋なサービスだった。また、コースからモミノ木の森に入ると、休憩用のテントがあった。先住民族が移動しながら狩りをする時に利用したテント、木製の棒の上方を組んで下方を広げて布を被せたティピーを見かけた。いかにも子ども受けする心遣いだった。

もう一つのスキー場ヴェールは、更に一回り大きく奥深かった。大きくフロントサイト、バックサイトに当たるのがバックボウル、ブルースカイベイズンに分かれ、それぞれが圧雪、オフピステ、圧雪されていない雪面、ロッキーの自然を感じられるツリーランを楽しめるようになっていた。日本では聞きなれないバックボウルのボウルとは、樹木のない尾根と斜面と谷の隣接によって形成されたすり鉢状の窪地のことで、降った雪がそのままの状態で残るところでオフピステ天国だった。

世界的な視点からスキーの傾向を見ると、ロッカースキーの開発やバックカントリースキーの流

行もありオフピステ滑走の人气が高まりつつある。言葉を変えればスキーの原点回帰ともいえる。

安全面を考えると圧雪されたスロープに比べれば当然リスクが伴うので、スキーヤーのスキルアップ、オフピステ専門のガイド、スキー場としての整備などなど求められる。ニセコで見られるように、ゲートを設けて積雪状況による許可制、ヨーロッパのスキー場で良く見かける「自己責任」の範囲拡大などが大きく関わってくる。「コース外滑走禁止」一辺倒では世界のスキー文化から取り残されかねない状況である。また、驚いたことにクリスマスなどの休日にヴェールを訪れる客のほぼ半分がスキー目的でなく家族の団欒だと聞いて驚いた。



ヴェールスキー場（絵葉書）

日本のスキー場の多くは、複数日のリフト券は連続なので吹雪でも雨でもリフトは動く。宿も食堂もスキーシーズン特別料金、スキー客故の雑魚寝状態の宿、スキー場というだけで値段が跳ね上がる自販機である。2020 年から始まった新型コロナウイルス禍が、スキー宿の改善をもたらした。ロープウェイも定員一杯の蜜から解放された。これを機に特別料金見直しとなれば、これまでの日本式スキー場が新しいスタイルの冬のリゾート化への出発点になることを示唆しているように思えたが、元の状態に戻りつつあるのは残念である。

・アンクル バッド ハット

アメリカ、カナダには“Hut to Hut”、1 日で移動できる距離に無人の山小屋が建っている。今回はローラ女史の計らいでアンクル バッド ハットに入って 2 泊 3 日の山スキーが組み込まれていた。南米の最高峰アコンカグア登頂者のミッチェル氏をリーダーにローラ女史と日本人 2 名の 4 名で、3,469mのアンクル バッド ハットに向かった。車は 2,977mのテネシ峠までで、ここからモミノ木に囲まれ雪の林道、更に雪の深くなったコースをほぼ 10 km、スキー登山する際の滑り止めシールを付けて 3.5 時間だった。

荷を下ろしたときは、大きなガラス窓越しにコロラド第2の高峰マッシブ山（4,398m）が夕日に染まり始めていた。小屋には 4 名のアメリカ人が入っており、厨房兼食堂の大きな薪ストーブが赤々と燃えていた。ガス、鍋釜、食器類が揃った厨房は動き易く、木の温もりが感じられる食堂はくつろげる設計で快適だった。トイレは別棟で、腰を下ろすと足が床に届かず何とも落ち着かなかった。



夕食時、ローラ女史と日本人の 3 名の口からごく自然に「いただきます！」の声と同時に手を合せた。それを隣で見ていたアメリカ人から「今、なんと言った？」の質問がとんできた。「いただきます」と「ごちそうさま」は、仏教徒である日本人の習慣であることと、意味を話したら、「美しい言葉だ！」と感心していた。仏教国以外では日本のように食前食後の決まった挨拶はない。食前

のお祈りが「いただきます」、食後の「美味しかった」などの一言が「ご馳走様でした」の代わりになるようである。

翌朝も晴れた。小屋の北西に聳えるガレンナ山（3,684m）から東に延びる尾根の中間地点まで登り、各自が気ままにコースを選び、背丈ほどのモミノ木をポール代わりに 3,000mのシャンペンパウダーを満喫した。

• One Room One Bed ?!

ヴェールからデンヴァーに向かうバスに乗り込む時、ローラ女史から「デンヴァーはヴェールと違い危険な街だから気を付けるように!!」の忠告があった。デンヴァーの暗くなったバスターミナルでアルコールを匂わせ、汚れた服装の大男が、何か食べ物を・・・のようなことを口にしながら近づいてきた。ヴェールではあり得ない光景だった。

ホテルで予約している旨告げると、30代前半の女性スタッフから“One Room One Bed ? ”の問いが飛んできた。一瞬ドッキとしたが、落ち着いて ” One Room Two Beds, Please! “ で、ツインの部屋に落ち着いた。野郎2人が一つのベッドということはどうも同性愛者に間違われたようだ。当然のように表情一つ変えずに聞いてくるところからすると、アメリカでの同性愛は既に市民権を得ているのだろうか。後日訪れたカナダのトロントの一面がレインボーフラッグで飾られていた。また、ケープタウンのツーリストインフォメーションには同性愛者向けの地図が用意されているとも聞いた。旅は独りか男女ペアが基本であることを改めて感じた。

<アメリカの切手>

クリスマスが近づくと、あるいは長期休みの終わり頃になると絵はがきが届く。このような切手を1枚、また1枚と集めているうちにかなりの数になった。これらを国別に整理してみると、切手のお国柄が浮かび上がってくる。ネパールとパキстанは氷雪の山々、中華民国やタイは色彩的に美しく、コスタリカは野生動物が多い。アメリカは人物が目立ち、カナダは子どもたちの絵や野生動物が多い傾向が見えてくる。

近年、インターネットの普及で切手のお世話になることがめっきり少なくなってしまった。加えて、絵はがきと切手は別々の場所で購入が大半だし、日本のように簡単にポストは見つからない。郵便局まで出向いて切手購入となると、これだけで半日の用事になってしまう。手元にあったアメリカの人物切手を集めてみた。



ウィリアム フレデリック コーディー（1864-1917）

西部開拓時代のガンマン。1867年バッファローハンターとして鉄道建設労働者に食糧を供給したことからバッファローと呼ばれるようになった。1867-1875、フィリップシェリダン少将の指揮するコマランチ作戦、先住民掃討作戦にも関与した。

ヘンリー フォード（1863-1947）

アメリカの起業家で、自動車会社フォード モーターの創設者。工業製品の製造に「ライン生産方式」の後援者。カール・ベンツが自動車の生みの親なら、フォードは自動車の育ての親。T型フォードは産業と交通に革命をもたらした「自動車王」と称えられている。





ハリエット クインビー (1875-1912)

アメリカで最初にパイロットライセンスを得た女性パイロットで、映画脚本家。1912年、女性で最初にドーバー海峡横断飛行に成功したが、同年飛行機事故で亡くなった。

ジョセフ スティルウエル (1883-1946)

二次世界大戦で活躍したアメリカ軍人で陸軍大将。太平洋戦争ではインド、ビルマ、中国方面司令官を経て、1941年、ビルマ戦線で日本軍への反攻を指揮。1945年沖縄戦末期の司令官



デニス チャベス (1888-1962)

アメリカ生まれのヒスパニックの民主党政治家。下上院議員を務めた。郵政公社から35¢のグレートアメリカズシリーズ(1980-2000)の郵便切手

エディ リッケンバックカー (1890-1973)

航空術のパイオニア。第一次世界大戦で陸軍航空隊戦闘機の撃墜王、カーレーサー、会社社長、政治家の顔を持つアメリカンヒーロー

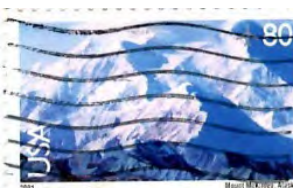


ジャックリーン コ克蘭 (1906-1980)

アメリカ女性パイロットのパイオニア。女性初の音速の壁を越え、空母発着したパイロット

マリリン モンロー (1926-1962)

女優とモデルとして一世を風靡した。世界で最も売れた切手とか?! 英会話でお世話になったALT、アニーが帰省した時のお土産。ロック歌手エルビスプレスリーの切手と一緒にいただいたが、引っ越しなどで行方不明



デナリ山

アラスカ州にある北米大陸最高峰(6,190m)。大統領の名前でマッキンリーと呼ばれていたが、2015年からデナリに変更。近隣に住む先住民族の言葉で「大きな山」、「高きもの」に由来。第二次トランプ大統領は旧名称に戻すと言い始めた

【資料】 ニューヨーク直送ジョーク — アメリカだけ

1. 救急車よりピザのデリバリーの方が早く来るのはアメリカだけ
 2. ドラッグストアで病人が一番奥まで処方薬を取りに行くのに、健康な人は1番手前でたばこを買えるのはアメリカだけ
 3. ダブルチーズバーガーとポテトのLサイズとダイエットコークを注文するのはアメリカだけ
 4. 銀行の扉は開けっ放しなのに、筆記用具はカウンターに鎖でつなぐのはアメリカだけ
 5. 何千ドルもする車は道に駐車して置くのに、不用品をガレージに置くのはアメリカだけ
 6. ソーセージ10本入りなのに、ホットドッグ用のパンが8個入りなのはアメリカだけ
 7. スケートリンクの前に身障者用駐車場があるのはアメリカだけ
 - 園児、児童、生徒を乗せたスクールバスが止まると、バスから赤信号が出る。当然、車はストップしなければならない。アメリカのスクールバスは最強の乗り物である
 - 警察官が身障者用駐車場をパトロールし、健常者が駐車していると普通の駐車違反よりも高い反則金が課せられる
- ニューヨーク出身のALTに見てもらったところ、「うん、うん」とうなずき納得していた。6.ソーセージとホットドッグ用パンの数が合わないのは、ホットドッグをつくる間に食べる分だという

カナダ（カナダ）

国名の始まりは、16世紀フランス人カルティエがセントローレン川を探検中、調査に同行したネイティブアメリカンのイロコイ族にスタグコナ村、現在のケベックへの道をたずねたところ、「集落」を意味するカナッタと教えられた。彼の航海日記に、この地を「カナダ」と書き記したことに始まる。フランスの探検家の勘違いがカナダという国名の由来となった16～17世紀にかけてフランス人によるビーバーの毛皮取引を介してヨーロッパに知られるようになった。その後、フランスが植



カナダ山岳会バッジ

(英語とフランス語で表記)

民地争いでイギリスに敗れ、イギリスの植民地となった。言葉を換えれば、フランスが入植し、イギリスが支配した国である。その後、カナダ自治領を経て1949年独立。10の州（Province）と3つの準州（Territory）からなる。人口3789万人（2020）だが、全世界から移民を受け入れている。200を超える民族からなる多民族国家で、世界で初めて多文化主義の政策を作用している。

面積は広大で北アメリカ大陸の北半分を占め、ロシアに次で世界第2位で、ヨーロッパより広い。海岸線は世界最長で、領土の半分以上が森林に覆われている。大小合わせて300万の湖沼があり、年間を通して様々なアクティビティーが楽しめる。大陸西岸のバンクーバーから大陸東岸のハリファックスを結ぶハイウェイの長さが6,000 km、モントリオールとバンクーバーを結ぶ大陸横断鉄道4,900 kmで、シベリア鉄道に次いで長く4日間で結んでいる。国内の時差が4：30あり、6つの標準時が使用されている。

カナダとアメリカ合衆国との国境の大部分は、北緯49度である。従って、カナダの大半はそれ以北ということになる。北方領土を除くと日本の最北端、稚内市宗谷岬が北緯45°31'だから、カナダの気候帯は大半が冷（亜寒帯）帯か寒帯である。しかも、かなりの広範囲にわたって北極圏に入るため人の住める地域の面積は限られており、人口の80%はアメリカとの国境から200 km以内

に住み、オンタリオ州とケベック州だけで全人口の57.2%（2024）を占める。

マッケンジー キング元カナダ首相が「世界には多くの歴史を持つ国があるように、カナダには有り余る地理がある」の言葉を残している。雄大な自然を有する世界有数の資源大国であり、世界最高の国や最も住みやすい街などのランキングでは常に上位を占め、多様性を尊重し住み易く、魅力的な国である。ところが、地図帳や学校の授業では北アメリカ大陸として大国アメリカと一緒に扱われることがほとんどで、カナダの項目を見ることは無いに等しい。そんなことから「アメリカの裏庭」、「アメリカ51番目の州」などと揶揄されるほど存在感に乏しい。

カナダの国旗は、「メープル リーフ旗」（The Maple Leaf Flag）、フランス語では「一葉旗」と呼ばれ、赤白赤の縦縞で、中央にサトウカエデが配置されている。1965年から採用されている。また、赤と白はカナダの正式な国の色として1921年に宣言した。なお、カナダは“The Great White North”、“Maple Leaf Country”、“The True North”などの別称、愛称で親しまれている。



カナダは資源大国でもある。特に、鉱物資源は金銀はじめ銅や鉄鉱石に加えて、石油と天然ガスなどに恵まれている。発電では水力が60.1%（2016）を占めており、先進工業国では特異な存在である。他に、豊かな魚場、森林資源にも恵まれている。主要産業の一つが観光で、観光客の半分はアメリカ人が占めている。伝統的にイギリス、フランス、ドイツ、オーストラリア人が多い。近年日本、韓国、中国などアジアからの観光客が増加している。



カナダの記念品 左からワシの羽、熊の足のお守り、 トナカイのネックレスとオオカミのブローチ

<カルガリー空港と回廊都市>

2006年と2008年の3月、カナダ山岳会の協力を得て日本山岳会アルパインスキークラブ有志がカナディアンロッキーでのバックカントリースキーと登山のためカルガリー入りした。空港でとかく退屈するターンテーブルでパンダやペンギン、キリンなど微笑ましい姿の動物たちと目が合うようになっている。また、空港すぐ南に博物館があり、その名も「SPACEPORT」である。20機以上の航空機、50を超えるエンジンや翼の仕組み、更には地球上での体重を月と火星での体重に変換してくれる装置があって、年齢を問わず楽しめる。

カルガリーはアルバータ州最大のビジネス都市で、人口139.2万人（2024）を越える。産業の中心は石油と天然ガスである。-30℃になる厳しい冬の寒さ対策として、ビル同士が空中回廊で結ばれた近代都市だった。ちょうど2階の高さに、通りをまたいであちこちに張りめぐらされている。銀行の角から2階に上がると、こっちのショッピングビルとあっちのオフィスビル街、外に出るこ

となく4～5ブロック離れた建物まで行くことが出来る。回廊内部の店の外装も凝っており、地上の街歩きと変わらなかった。なんだか未来都市カナダの感じだった。

＜国立公園、日本とカナダの違い＞

カナダは1867年独立の若い国だが、そのわずか18年後の1885年に国立公園のシステムが発足し、アメリカ、オーストラリアに次いで世界で3番目に国立公園が誕生している。いわば国立公園先駆けの国である。

国立公園の考えは環境保護と生態系維持が二本柱で、広大な自然を手つかずで、あるべき姿を保つことだという。これに対して日本の国立公園は、地域自然保護と風景の保護が柱で、国立公園内に住む人々の所有権や財産権を尊重し、産業との共存、1つの風景としての保全を主たる目的としている。要するに、国立公園の成り立ち、文化、歴史などが、2国間では全く異なるといえる。

カナディアンロッキーの国立公園内に建つ山小屋は、全てカナダ山岳会が所有し管理している。ガスレンジ、調理台、食器洗い場が並び、炊事用具、食器類、照明用のガス灯まで揃っていた。トイレは別棟で、タンク貯蔵式で満タンになるとヘリで運び降ろして処理するという。勿論、ゴミは持ち帰り、食器洗いなどの汚水の排水までも制限されていた。

カナダ山岳会のバックアップを得て、山小屋から山小屋へと移動しながら、早春の山スキーと3つの3,000m峰の登山をしながら、1週間かけてワプタアイスフィールドを横断した。



ワプタ
アイスフ
ールドに
建つポー
ハット

＜クマの 国＞

車でゴ
ールデン、
レークル
イーズを

経由してバンフに向う途中、かなりの数の「動物 注意」の看板を見かけた。なかでも、黄色地に黒の熊が描かれたものが目立った。日本なら「注意！熊 出没」となり、大きく口を開いた恐ろしい熊が描かれた看板になるのだろうが、カナダでは「注意、あなたは熊のエリアにいます」の感じで、熊の方が先住者という目線が感じられ、人間が邪魔している感じだった。熊エリアでの道路工事は、熊が冬眠する間か、人里を遠く離れる夏に限定されるという。よく見かけた野生動物は、国道まで出てきている立派な角を持つマウンテンシープの群、山中のリスや鹿などであった。フリーウェーの制限時速は90 kmだが、動物の出るところは70 kmに制限されていた。



＜恐竜博物館、ロイヤル・ティレル博物館＞

カナダ観光局発行の機関誌に、巨大な恐竜に微笑みながら語りかける少女の写真があった。そこには恐竜と人間との間に時間的な隔たりは全く感じられなかった。以来、子ども心を虜にする恐竜への興味が増し、恐竜の里ドラムヘラーを強く意識するようになった。

カルガリーから 140 km、人口 6,000 人のドラムヘラーは、通りに面して平屋が並び、窓枠とドアが目立つペンキ塗りで西部劇にでてくる街を髭髯させるものがあつた。可愛い色彩と形の恐竜のモニュメントと案内板に導かれてインフォメーションに行くと 20mを越すコンクリート製のテラノサウルスが天にむかって大きく口を開き、牙を剥きだしにして迎えてくれた。

街から 6 km。幹線道路から右折すると、生茂る樹木も住む人もなく、足を取られそうな縞模様の地層が広がり、見るからにバッドランド、荒地が広がっていた。ここに隠し砦のように博物館があつた。古代生物専門の博物館で 200 点もの展示物があり、50 体以上の完全な恐竜の骨格は世界最高水準だという。

博物館に入ると直ぐ「白亜紀のアルバータ州」ということで、植物の生茂る中に牙を剥きだしの恐竜がいた。しかし、リアルだけに何か冷めた気持でカメラのシャッターを切った。次のコーナーに恐竜の巨大な脚の化石が立っていた。博物館の定番表現である「手を触れないでください」とは真逆の「手を触れて」と書かれていた。実感として捉えることの出来ない時を経たものの感触は予想以上にひんやりとしていた。

前方に一際明るいガラス張りの部屋があり、石膏で固められて持ち込まれた化石を石から掘り起こす作業、クリーニングと称される作業所であつた。防塵マスクにメガネ姿で、歯治療機器の様なものを使つての細かい作業の様子を見ることができた。現在持ち込まれている化石だけでも 50 余年分の作業量になるというから、出土する化石の量はかなりのものである。



一段と照明を落としたコーナーに、最強の肉食恐竜といわれているテラノサウルスの黒味を帯びた茶褐色の完全な骨格があつた。ここまで歩いてきて突然動きを止めたように臨場感溢れる姿で立っていた。恐竜は仮想の動物ではないことは解かるが、想像を超える遠い昔に生息していた動物くらいに思い続けてきた。しかし、今、目の前にしている完全な骨格は、巨大動物の時代へタイムスリップするのではなく、時空を超えて突然恐竜が現れたように思えた。巨大な骨の集りながらも不思議と気味悪さもなければ恐ろしさも湧いてこない。驚きに似た感動が体の自由を奪いしばらくの間身動きすることなく対面し続けた。

この地がカナダで恐竜の化石が最も見つかるところで、これまで 20 種類以上を数え、毎年、新しい化石が発見され続けているという。そして、過去の生態系が自然のまま残されていることからミッドランド州立恐竜自然公園として、1979 年に世界遺産の指定を受けている。

スピルバーグ監督がジュラシックパークの構想を練ったとされるコスタリカの熱帯雲霧林に 5 年前に行った。熱帯雨林より湿度が高いため 1 本の樹木に 200 を超える着生植物が見られるところだった。恐竜たちが動き回っていた中生代の環境は、今日の熱帯雲霧林のような幽玄な世界であったのだろう。しかし、化石として生まれ変わった姿には、雲霧林よりも簡素で大きな展示場が相応しい場所に思えた。そして、動き出さんばかりの姿は、遠い昔の生きものというより、明日にでもその辺で出会える身近な動物であった。

数億年にわたり繁栄し続けた巨大動物がある時期を境に、短期間のうちに絶滅したことも信じがたい。原因は諸説あるなかで巨大隕石の地球衝突説が最有力視されている。いずれにしても地球環境の変化が恐竜の運命に大きな影響したことだけは確かといえる。また、いかなる



恐竜博物館の記念品

竜の化石は、絶滅後の姿として黙して何かを語りかけているようにも思えた。

生き物も生きるための最大の武器が逆に命取りになることもあるという。恐竜は巨体であり、マンモスは巨大な牙であった。現在、地球上で繁栄し続けている「ヒト」の最大の武器は何だろうか。既に地球上の全ての生物を数百回も死に追いやるだけの核兵器が、アメリカ、ロシア、中国をはじめ9カ国に分散して所有している。地球温暖化と共に大気汚染ははじめとする数々の公害が環境変化の度合いを年々大きくしている。進化の果てにあるも

のは絶滅であるとも聞いた。巨大で、あまりにも完全な恐

<分水嶺と峠>

ワプタアイスフィールド横断のハイライトは、大分水嶺の「ハイ コル」越えである。バルフォア小屋前の雪に埋まった沢を横切ると、いきなり蒼氷を乗せた岩棚が覆いかぶさり、正面から右手にかけてはバルフォア山からの氷河が合流していた。ロープを結び合いクレパス帯を抜け、懸垂氷河を斜め横から見えるまで黙々と高度を稼いだ。傾斜が緩くなり、積雪も少なくなったが、ガイドは繰り返し隠れたクレパスに神経を尖らせていた。1 歩ごとに氷原が前後左右に広がるようになって間もなく、待望の大分水嶺のハイコル、2,990m だった。霧が視界を遮っているが、ガイドの「ヨーホー国立公園にようこそ！」の言葉で一気に緊張から開放された。

国土の大半が山地で、無数の河川が流れている日本は、至る所に分水嶺があるはずだが、意識することはほとんどない。中学、高校で使用する地図帳にも、国土地理院で出している 1/2.5 万の地形図にも分水嶺を示す記号はない。ある本によると、日本の国道の 180 本、鉄道の 61 路線が大分

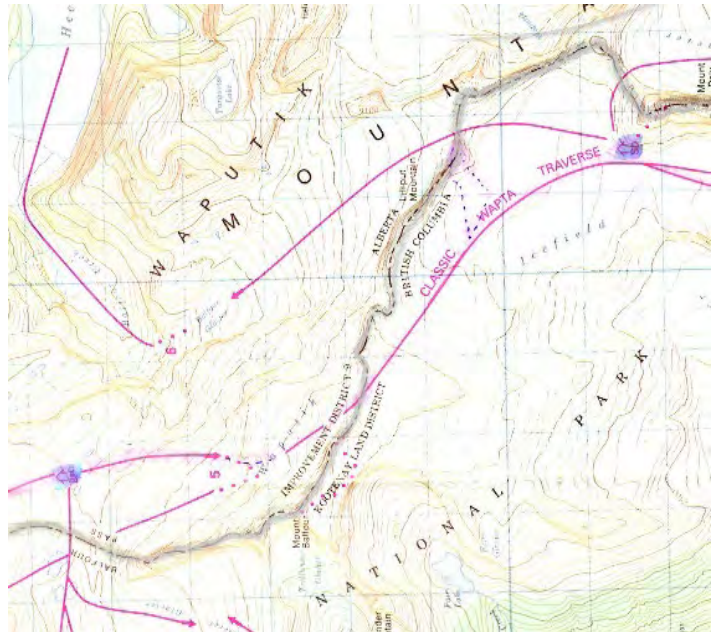
水嶺を横断しているというから、ちょっと遠出すれば必ず越えているのだが……。これがカナダ、アメリカになると、太平洋と大西洋に注ぐ水系を分ける「大陸分水嶺」(Continental Divide) が1本の線で道路地図にもしっかりと記入されている。大陸の国と島国の違いが、分水嶺の線と峠の点の違いとなって表現されているのだろうか。

風を避け休んでいると、霧が劇的に消えた。ガイドのダグが「行くぞ!」の声を残して、青空の下に広がる無垢の雪を舞い上げシュプールを伸ばしていった。黒点と化したダグが止まった。緩傾斜での高度差180mは、気が遠くなりそうな距離だ。

低温と乾燥、弱い陽射しの下で風にさらされた雪は、我々に用意された天然の毛足の長いカーペットだった。

山スキーには登り、歩行がつきものだ。滑りに比べれば楽ではないが、登りそのものにも色んな喜びもある。短いアプローチで氷原に達するワプタは、ゆったりとし、静寂が支配する日常とかけ離れた世界である。高度に悩まされることもない。最高の山スキーが楽しめる舞台が整っていた。

【参考】2005年、日本山岳会創立100周年記念事業として日本の中央分水嶺踏査を行った。北海道宗谷岬から鹿児島県佐多岬まで、河口を日本海と太平洋に分ける分水嶺約5000kmを全国25支部が手分けした。山形支部は関山峠-面白山-蔵王-番城山-二井宿峠-栗子山-板谷峠を担当した



北東から南西に伸びる黒い線が分水嶺(赤線はスキーコース)

<ロジャーズ パス>

ワプタアイスフィールドを横断しながら3つの山に登り、ロジャーズパスに降りてきた。今夜は1週間ぶりに自炊から解放され、シャワーも使え、ベッドで手足を伸ばせるモーター泊りだ。

ロジャーズパスはブリティッシュコロンビア州グレッシャー国立公園のほぼ中央、大陸を東西に横断する国道1号、トランスカナダハイウェイがコロンビア山脈を越えるところの峠である。この付近一帯は標高1,330m



アサルカン小屋から峠へと続く雪原

(中央左上と右の黒点は人影)

と高く、「濡れ雑巾を絞るように雪が降る」と例えられる多雪地帯である。

1886 年、カナダ太平洋鉄道（CPR）によって大陸横断鉄道が開通したが、豪雪から線路を守るため 6.5 km に及ぶスノーシェッドが設けられ、一冬雪の様子を見てからの運行だった。1910 年、雪崩による線路上のデブリ除去作業中に第二波の雪崩が発生し 62 名が犠牲になる大惨事が起きた。



ロジャーズパス記念品

その多くが日系人であった。翌日、カナダ最大の豪雪地帯に建つウイスラー小屋経由でアサルカン峠を目指した。登り口は、モーターと目と鼻の先だった。かつて鉄道跡の平坦なコースを進み、ウイスラー小屋に立ち寄り、最小限の荷物にして樹林帯に伸びる谷に沿って登りはじめた。斜面の所々に雪崩の跡、薙ぎ倒された木々が残っていた。その上方に漏斗状の地形が広がり、雪崩が集ってくる所にマウストラップの名が付いていた。

森林限界を越えた 2,260m のアサルカン小屋は、石膏を流したような雪面を前に建っていた。アサルカン峠近くまで登り、見渡す限りの深雪を滑ってウイスラー小屋に戻った。

＜アルバータ山と日本隊＞

カナダのジャスパー国立公園内にジャスパーイエローヘッド博物館が建っている。ここに仙台市出身の横 有恒 氏を隊長とする日本山岳会登山隊がカナディアンロッキーのアルバータ山（3,619 m）初登頂記念に山頂に残してきた折れたピッケルと登頂メモ^(＊1)と隊員の写真が展示されている。1925 年初登頂の時、アルバータ山頂上に残されたピッケルは、その後、数奇な運命をたどる。

1948 年、アルバータ山 2 登のアメリカ隊が、23 年間山頂に立っていたピッケルを抜こうとした時、硬く凍りついており木製シャフトの下、石突の部分が折れてしまう。ピッケルの本体部分を本国に持ち帰り、倉庫に保管していたが、1995 年にカナダ山岳会に返還された。1965 年、長野県長野高校 OB 登山隊がアルバータ山 5 登の記念として山頂に残っていた折れた石突部分を持ち帰り 30 余年保管していたが、カナダの博物館に「折れたピッケル」として展示されていることを知り、日本山岳会に寄贈を申し出た。

1997/12、日本山岳会の恒例行事である年次晩餐会に、カナダ山岳会会長がピッケル本体を持参し、日本山岳会長野支部の登頂隊員が折れた石突部分を持って参加した。二つに折れたピッケルが約半世紀ぶりに再会し、ぴたりと一致した。今はカナダのジャスパーイエローヘッド博物館に並んで展示されている。このピッケルのことが芳賀 淳子女史によって絵本^(＊2)となり出版されている。

折れたピッケル合体を機に日本山岳会とカナダ山岳会の交流が更に深まり、日本山岳会アルパインスキークラブの「ワブタアイスフィールド横断」（2006）と「コロンビア山群スキー」（2008）では、カナダ山岳会の山小屋使用、ガイドの派遣、会長さん出席のもと山岳会本部でのお別れパーティーと全面的な力添えを頂いた。

（＊1）「1925 年 7 月 21 日午後 7 時半、16 時間の健闘の後に頂上に達す。案内人フーレル、コーレル、助手ウィーバー以下 6 名の一行は、遅くとも日本よりこの偉大な山岳を慕って来たれるものなり」

（＊2）絵本「アルバータ山のピッケルものがたり」芳賀 淳子 著（2013）

1925 年、隊長 横 有恒氏が率いる日本山岳会登山隊がカナディアン ロッキーのアルバータ山に初登頂した。その時、山頂に残してきたピッケルのことである。その後、このピッケルが木製のシャフトの部分が折れて本体と石突きの部分が離ればなれになってしまう。50 余年の時を経て再び 1 本に合体されるまでを、実話をもとに美し

い水彩画と文で綴られている。なお、著者のご尊父がアルバータ山登山隊員の三田 幸夫 氏、夫君は元日本山岳会副会長 芳賀 孝郎 氏。札幌市在住

＜メープルシロップ＞

カナダの空港お土産物コーナーにはカエデ型をしたクッキーやシロップピンが並んでいる。メープルシロップは、私たちの日常生活においてもパンケーキ、ホットケーキやフレンチトーストなどを食べる時に身近なものとなっている。カナダ国旗中央部に描かれているサトウカエデの樹液を濃縮した天然の甘味料である。起源はメープルの樹液を吸っているリスを見た先住民が食用、薬用として使い始めたことに始まる。これを受け継いだのが 17～18 世紀に入植したフランス人開拓者たちで、彼らの手で特産品にされたといわれている。主産地はカナダ南東部ケベックとオンタリオ州で、世界の 80%を生産している。収穫期は 3 月下旬から 6 週間と短い、待ちに待った季節であり、収穫の喜びに沸くという。トロント郊外のエルマイラでのメープルシロップ祭りが開かれると聞いた。

なお、ナイアガラ滝からケベックまでが「メープル街道」と呼ばれており、秋の紅葉シーズンには世界からの観光客でにぎわう。ナイアガラ滝からトロントに入り、オンタリオ湖とセントローレンス川に沿って進み、モントリオールを経由してケベックシティまでの 800 km である。シュガーメープルは橙色、ポプラとシラカバは黄色、レッドメープルは赤、森の王と言われるオークは赤や紫と、メープルの紅葉に彩られ、その美しさはカナダを象徴する風景となる。また、この街道はかつてフランスとイギリスが覇権を争ったことから「史跡街道」とも呼ばれ、カナダ建国の歴史街道でもある。

＜カナダの自然が育んだ文学作品＞

カナダを舞台にした小説、世界中で長年愛されている作品に L.M.モンゴメリーが 1908 年に発表した「赤毛のアン」がある。物語の舞台は作家の故郷でカナダ東端、セントローレンス湾に浮かぶ小さなプリンスエドワード島である。「セントローレンス湾の庭園」とも称される島は、鮮やかな赤土、緑の牧場や森、青い海と空、道端に咲く色とりどりの草花など自然溢れている。

アンが島にやってきたのは、白いリンゴの花が咲く季節の 6 月であった。島人によると、島には「54 の緑色」があるという。柔らかそうな牧草、小麦畑、特産のジャガイモ畑、モミとトウヒの木々、シラカバ林、リンゴやスモモの果樹、それに手入れの行き届いた花壇と芝生、一言ではまとまりつかない様々な緑に溢れる島の様子が浮んで来る。この地で伸びのびと成長していく想像力豊かな少女の物語である。

また、世界中の人々に親しまれているデズニーのアニメ「クマのプーさん」の生まれ故郷は、カナダ中央部の大平原の街ウィニペグである。アメリカとの国境から北に 100 km のプレーリーの一角でマニトバ州の州都である。州面積の 15% が湖沼で「10 万の湖のある州」とも呼ばれるほど自然が豊かで、のどかな雰囲気がプーのイメージと重なるという。ウィニペグからロンドンの動物園にやって来た子グマはたちまち人気者となる。ことのほか子グマ好きな子どもが、自分のぬいぐるみにウィニペグに因んで「ウイニー」と名付けた。子どもの名はクリストファーで、1926 年発表された A.A.ミルンの児童小説「クマのプーさん」(Winnie the Pooh) の作者の息子である。

「シートン動物記」で知られる E.T.シートンもカナダの大自然に憧れ、影響を受けた一人である。彼はイギリス生まれだが、5 歳の時カナダに移住する。子どもの頃、好んで森の探検に出かけたと

いう。オンタリオ美術学校卒業後、絵の勉強のためイギリスに渡る。大英博物館で出会った博物学関係の本を読み漁り博物学者へと導かれていく。しかし、4年後に大自然への憧れからカナダに戻ってくる。その後も、ニューヨークとパリに生活の場を移すが、その都度カナダに戻っている。画家、博物学者となっただけからは、アメリカからフランスそしてアメリカへと住処を変えているが、彼が提唱したウッドクラフト、森林生活法は、アメリカ大陸先住民族の生活を理想とした素朴なエコロジーと自然主義であったという。

3つの作品とも発表されてから100年前後経過している。世代を越えて読み継がれているのは、優れた作品に加えて作品が生まれた背景、作者の心の中でゆっくりと流れているカナダの大自然が大きく影響しているような気がする。

<車のナンバープレート>

バンフで買い物をするため公共の駐車場に車を止めた。カナディアンロッキー観光の中心都市だけに、国内各州の車が止まっていた。車のプレートがカラフルで、州ごとに特徴ある絵や文言が書かれていた。アルバータ州は、州の花であるワイルドローズが赤で、青い文字で Wild Rose Country、ブリティッシュコロンビア州は、Beautiful British Columbia と The Best Place On Earth、オーロラで知られるイエローナイフのあるノースウェスト準州は白熊の形のプレートで、Explore Canada's Arctic とあった。

日本も見たい目より実用性の意見を取り越し、ようやく地方版図柄入りナンバープレートを見かけるようになった。しかし、山形県を見る限りでは県をアピールするものとしては物足りなさを感じる。世界的な観光資源で郷土遺産の樹氷、全国区として人気を集める鳥海山や朝日連峰などの山々、山寺や最上川など、今後改良の余地が大いにあると思う。



<カナダのコイン>

カナダの通貨はカナダドルで、紙幣と硬貨が使用されている。承知の通りカナダには2種類の消費税、GST（連邦消費税5%）とPST（州消費税）がある。GSTは一律だが、PSTは州ごとに異なり0～10%と幅がある。これが外税なので値札にプラスされる。その場での計算は不可能であった。従って、紙幣の使用頻度が高くなる。釣銭は硬貨の場合が多く、財布には小銭がどんどん増えていく。

小銭の数は意外と解り易く、時間の経過とともに結構使えるようになった。山から降りてのコインランドリーや買い物などで、25¢硬貨の使用頻度が高いのに驚いた。カナダの硬貨の表面は、全てイギリスのエリザベス2世女王で、裏面はカナダを代表する動物が多い。この傾向は切手にも表れている。

- 5¢：通称「ニッケル」裏面ビーバー
- 10¢：通称「ダイム」裏面スクーター船（帆船の一種）
- 25¢：通称「クォーター」裏面カリブー
- 1\$：通称「ルーニー」裏面ルーン（国鳥のアビ）
- 2\$：通称「トゥーニー」裏面白熊



＜憧憬の地＞

＊カナダ人が勧めるオーロラ鑑賞地

日本で見られない自然現象の一つにノーザンライト、オーロラがある。全く駄目と言う訳ではないが、カーテン状に揺れ動くものは期待薄である。オーロラとは、「宇宙から飛んでくる電気を帯びた微粒子、プラズマが、地球の大気とぶつかって放電し、そのエネルギーが光となり帯状に映る自然現象」と説明されているが、解ったようで解らないのが実情である。こんなことで悩むより壮大な自然界のパノラマを目の当たりにして驚嘆の声を出し、自然界に恐れを抱く方が人間として素直な生き方に思える。オーロラは地上 80～90 km に出現するので、澄んだ空の下でないと見ることが出来ない。すなわち、雲が無く天気の良いこと、空が暗いこと、太陽活動が活発なことなどが揃う季節がオーロラのベストシーズンである。

新聞などで見る日本のオーロラツアーは、カナダノースウエスト準州のイエローナイフが圧倒的に多い。日本からはバンクーバーか、カルガリーまたはエドモントン乗り換えてイエローナイフ入りがほとんどである。ところがカナダ人にとってのイエローナイフは、航空運賃がバカ高く、極北の遠いところのイメージが定着していた。カナダ人によるとエドモントンからヨーロッパに飛ぶよりも、イエローナイフの運賃が高いという。

カナダ人が勧める手軽なオーロラ鑑賞地はアルバータ州でエドモントンの北東 435 km のフォートマクマレーで、北半球におけるオーロラ鑑賞ベストスポットの一つだという。イエローナイフ、ホワイトホースと並ぶオーロラ鑑賞地だが、知名度が最も低い。サンドオイル産業が盛んなところでトロント、バンクーバー、エドモントンやカルガリーからのフライトがあり、バンクーバーとエドモントンからバスも走っており、最もアクセスに恵まれているという。また、南から伸びてきた道路が、油田地帯を過ぎるとなくなる地の果てで、針葉樹に囲まれた街だという。勿論、オーロラベルトの真下に位置しており 3 泊すると出現率は 96%、ベストシーズンは 9 月下旬から 5 月上旬だという。オーロラ鑑賞の他にも渓谷のアイスウォーク、スキーとスケート、犬橇、ボブスレーなどなど冬のアクティビティが揃っており、何日滞在しても退屈することはないと聞いた。

＊ヌナブト準州

カナダの 10 の州 (Province) と 3 つの準州 (Territory) のうちで最も新しいのがヌナブト準州で、イヌイット (*) が自治権を主張し 1999 年に旧ノースウェスト準州から分割し誕生した。ヌナブトとは現地語で「私たちの土地」の意味。

ハドソン湾の北岸以北とグリーンランド西の北極圏に点在する島々で、カナダ全土の 1/5 の面積を占める。人口の約 85% が 3,000 年以上前からこの地で暮らすイヌイットが占め、人口は州、準州の中で最



大理石の彫物 (カナダの友人からの贈り物)

小の 32,000 人弱（2011）である。気候を見るとツンドラと永久氷雪気候の寒帯が大半を占め、白夜と極夜の厳しい自然環境にある。主な産業は銅、ニッケルや金などの鉱業、毛皮産業などだが、国家経済に影響を及ぼすほどではない。

ヌナブト準州内には、「氷河の地」とか「世界の頂点」などを意味する 5 つの国立公園と 18 の野生生物保護区が設けられている。氷河による侵食で切り立った山々が聳え、太古からの氷河が流れ、アイスフォールド、地下の氷の圧力によって押しつぶされた塚（ピンゴ）などの地形、ホッキョクグマ、ホッキョクキツネ、イッカク、ブルーガイルカ、ジャコウウシなど、それに多種多様な海鳥など極北の珍しい動物が身近に見られるという。また、先住民イヌイトやその祖先であるチューレの生活文化に触れることもできる世界でも珍しい地域である。自然豊かなカナダの中でも手つかずの自然、未知の世界が広がる究極の憧憬の地といえる。

観光は、州都イカルイトのあるバフィン島とエルズミア島の 2 島を拠点にして国立公園や島々を巡るコースが設けられているが、ツアーは組まれていない。なお、エルズミア島北端のアラート（北緯 82° 28'、西経 62° 30'）は、人間の定住地としては世界最北で、62 人（2016 センサス）の軍関係者と気象観測関係者が常駐している。

コロナウイルス禍が終息し、自由に海外旅行を楽しめるようになったら、スヴァールバル諸島と共に真っ先に行ってみたい憧憬の地である。



(*) イヌイト

カナダ政府は、1991 年、エスキモーと呼んでいた北極圏に住む先住民について「生肉を食べる人」という差別的であるとして、彼ら自身の言葉で「人間」を意味するイヌイトを公式表現することで彼らと合意した